

集いの場になれば

く木のおもちやづくりの取り組みく

みんながいつ来ても、
木のおもちやに親しめる場としてあり続けたい

木のおもちやづくりグループ 代表 金田美紀

笑顔が絶えない
充実した時間

月に1回、町図書館車庫には、子どもたち、大人たちの笑い声や、小刻みにタタタタッという「電動糸のこ」の軽やかな音が響いています。木のおもちやづくりグループ（金田美紀代表）は、今年で活動20年を迎えました。会員は7人。和気あいあいの雰囲気の中、木を材料としたおもちやづくりを楽しんでいます。「最初のころは、電動糸のこなどの道具がなく、ほかの町に借りに行って活動していました。場所も黒坂と根雨を交互に行ったり来たり。で

も、町図書館が完成し、道具もそろえていただいていたからには拠点を町図書館車庫に。自分たちが木のおもちやづくりをやりたかったから、今も続けられているんです」と代表の金田さんは話します。活動の拠点となっている町図書館車庫には、会員や訪れた人の笑い声や笑顔が絶えることのない時間が過ぎていきます。

木のおもちやの
魅力を皆さんへ

その活動の始まりは、木のおもちや作家との出会い。25年前、日野町で活動されていた小松強志さん（現在、



電動糸のこに向かう会員の腕は確か



慣れない参加者にやさしく指導するグループ代表の金田美紀さん



交流しながら作品作りを進める。やさしい指導に子どもは安心



いつも笑顔のグループ会員

長野県在住）との出会いが考えを変えたきっかけになったとのこと。

当時、保育士だった金田さん。「壊れたら、また買ってもらえばいいという子どもの声を聞き、職員で悩んでいた時、木のおもちゃの温もり、夢中で遊ぶ子どもたちの姿を見て『良いもの』と確信しました。最初は保育士だけだった会員に、保護者も加わり、グループとして活動することになりました」と振り返ります。

今は、PTA活動や子ども会、子育て支援関係団体などから体験希望の依頼があり、米子市や日南町などにも出かけているそうです。

町内では、ふれあいまつりや町公民館まつりをはじめ、町図書館の木のおもちゃ貸出し、ブックスタート、日野ボランティアネットワーク（小谷博徳会長）の高齢者誕生月プレゼントの組み木作成など幅広く活動しています。

また、今年で7年目を迎える根雨小学校への出前教室や、子どもたちの夏休み期間中に、木のおもちゃづくり教室を計画。子どもたちが木の温もりに触れる機会をつくっ

ています。それぞれ講師には、グループと親交のある組み木デザイナーの小黒三郎さん（岡山県倉敷市）、おもちゃ作家の若林孝典さん（岡山県美作市）というプロの作家を迎え、参加者に好評を得ています。

木の温もりを被災地へ

また、東日本大震災被災地に木のおもちゃを贈ろうという小黒さんの活動に賛同。会員らは、毎月のグループ活動や体験教室の参加者に呼びかけを行い、組み木を作っていました。参加者からは復興を祈るメッセージを添えるなど多くの協力が得られたそうです。その後、金田さんへ被災地にあるおもちゃ工房からお礼の電話があったということです。

「全国から小黒さんの元に組み木が集まり、直接子どもたちに遊び方を教えながら、一人に一つ手に渡るように持参されているそうです。子どもたちが寂しくないようにしたいというのが小黒さんの思いです。私たちが作ったものも誰かに届き、遊んでくれてるんだらうなと思うと、う

れしいし、これからも続けたいです」と、金田さんは小黒さんの活動が、被災地支援になった実感を感じています。

ときめきを感じ元気になる

「木のおもちゃは笑顔になれるもの。人との出会い、作品との出会いがあり、私たちは『ときめき』を感じ、元気になるれます。子どもから高齢者までたくさんの方が楽しめますので、木のおもちゃに気軽に触れてほしいです。できあがった作品には愛着がわきますし、世界で一つ、作られた人の手作りおもちゃとなりますよ」と会員は元気いっぱいです。

今後のグループの活動について金田さんは「マイペースで活動したいです。夢は木のおもちゃが並び、そのそばには制作する場所。お茶も飲めるみんなの集いの場になればいいな」とっこり微笑みま

す。活動は月に1回、町図書館車庫が会場です。どなたでも参加できます。日程など詳しくは、町図書館（電話72・1300）まで。

今回で3回目となる

『木のお雛さま展』を町公舎で開く

来館者は延べ300人！

2月24日から26日までの3日間、組み木デザイナーの小黒三郎さん、木彫家のあらいみえこさん（長野県松本市）、おもちゃ作家の若林孝典さんの作品が一堂に展示された、木のお雛さま三人展が町公舎で開かれました。

16年前にあらいさんが6年間日野町に住んでおられたことが縁で始まったお雛さまの展示会。1回目は平成19年2月、2回目は平成21年2月、今回で3回目となります。色とりどりのお雛さまをはじめ、各作家の皆さんの作品が展示された町公舎には、3日間で300人が訪れ、笑顔があふれました。展示のほか組み木やおもちゃづくりの体験教室も開かれ「直接作家から指導を受ける機会はない」と県外からも参加者があるなどにぎわいました。



作品の説明を受けながら見入る来館者